

スウェーデン王国・デンマーク王国の性情報 および性教育事情覚書 (その 1)

—1997 年 9 月 6 日から 18 日までの私費渡航の報告—

佐 藤 年 明

Memorandum on Information of Sexuality and Education for Sexuality in Sweden and Denmark Vol. 1

Toshiaki SATOU

1. はじめに

筆者は今 (1997) 年度、本学に赴任して初めて在外研究 (長期・10 ヶ月) と海外研究開発動向調査 (2 ヶ月) に apply した。記憶するところ、それぞれ 2 名と 12 名の応募者があり、筆者は派遣候補者となることができなかった。

在外研究 (長期) は、出発時 50 歳未満という年齢制限付きである。候補者選定が毎年行なわれるわけではないこと (つまり毎年教育学部候補者のための指定席が用意されているわけではない) を考えれば、残るチャンスは数回であり、筆者以前から waiting している希望者の数を考えれば、可能性は高くない。従って、毎回 apply は続けるものの、他の fund を得るための努力も並行して開始しなければならないと考えている。

候補者選定の基準はあらかじめいくつか用意されていると聞いている。しかし、私見として述べることを許されるならば、候補者本人としてもっとも努力しなければならないのは留学を希望する対象国、対象研究機関との緊密な連絡と、それに基づく希望者本人の研究調査への準備の達成度をできる限り高めることであると思う。

そのための努力の一環として今回の私費渡航を計画した。

2. 北欧体験・ケースその 1 : コペンハーゲンの夜

1997 年 9 月 6 日から 18 日まで、性教育に関する調査研究のため、スウェーデン王国への私費渡航を計画した。

中部スウェーデン大学 (Härnösand ほか) の研究者の appointment が取れず、旅行中盤の日程が空白になったことから、現地で思いついて急遽 Danmark (これがデンマーク語の綴りである。Denmark は英語の綴り。) に飛んだ。9 月 9 日 (火) 午後に Stockholm の FINN AIR (フィンランド航空) 事務所で翌日午後の København (コペンハーゲン) 行きチケットを買った。後で考えれば、航空券代 2316skr (34,740 円) は、日本の格安航空券販売会社 H. I. S. で買った Malmö (マルメ。Sverige=スウェーデン南西部の第 3 の都市。København から高速船で 45 分程度) - Stockholm 間の同じ FINN AIR の航空券が 15,000 円だったことからすれ

ば、かなり割高である。直前の購入だったためか、それとも Sverige 国内線と国際線との料金差であろうか。

10日(水)午後、København の Kastrup 空港に降り立ち、リムジンバスで København 中央駅へ向かった。中央駅に向かい合っていて有名な Tivoli 公園がある。その西側の隅、大きな交差点に面したところにある City Information Center (観光・宿泊案内所)に行き、中央駅から南西に歩いて5分ほどの至近距離にある Metropol Hotel というところを紹介してもらった(紹介料として17DKK=

306円を取られた)。実は、これが大変なホテルであった。

週の真ん中の水曜日だから楽々ホテルが取れるだろうという予想が見事に覆され、どこも一杯であった。いろいろ条件を出していた他の客も、何人か同じホテルに booking された。このホテルは駅をまたぐ跨線橋を含む Vesterbrogade という大通りから僅かに南へ入ったところにあるのだが、大通りからの入り際にはこのホテルの2階にあるナイトクラブで連夜行なわれる strip show のどぎつい看板がこれ見よがしに置かれている。ホテルの前にも同様のもの(写真1・2)があり、夜にチェックインする宿泊客は、ショウを見に来る客と同じ入り口から入ることになる。

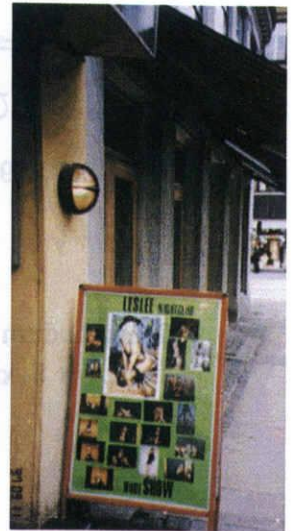
City Information Center の案内嬢は、ここを私に紹介するときに次のように言った。「部屋は取れますが、一つ問題があります。それは騒音です。夜の10時頃から午前4時頃まで(筆者註・実際には、12時頃から5時頃までだった。)すぐ下のナイトクラブでショウがあります。部屋は3階でシャワーはありますがトイレは廊下です。2日目はもう1階上のもう少し静かな部屋に移動できますが、この部屋にはトイレがあるもののシャワーは廊下です。それでもいいですか?」

私はこの条件をのんだ。あまつさえ、チェックインしてから面倒になったので2日目の部屋の移動は断った。これが失敗であった。

10日(水)は移動日だったため、たしかに夜中に大音声の音楽が聞こえたけれども、子守歌くらいのつもりで眠ることができた(同じく City Information Center の斡旋を受けて同宿だった Australia の Cairns から来たビジネスマンは、翌朝朝食を取るカフェで出会ったとき、全然眠れなかったと言っていた)。11日(木)も一日中 København を歩き回り、駅から歩いて1時間半くらいはかかる街はずれの海岸の Den lille Havfrue (人魚姫の像)まで行ったりもしたので、疲れていたはずなのだが、寝入りばなに起こされてしまった。しばらくは翌日の移動のための packing などをして時間をつぶしたあと、再びベッドに入ったが、やはり寝付けない。



〔写真1〕
クラブのショーの看板



〔写真2〕
ホテルの玄関

そこで私は、どうせ眠れないならと直下で行われているショーを見に行くことにした。フロントで聞くとすわるだけで60DKK (1,080 円) だという。やや緊張して2階にあがり、ビール1杯を注文して約1時間程度そこにいた（最終的に払ったのは110DKK=1,980 円だった）。15分おきくらいに数分間のショーがある。金髪のスマートな女性が登場して、一糸まとわぬ姿になってまもなくショーは終わる。私はこの日の昼間、København の市街地のど真ん中に堂々とオープンしている（写真3）Meseum Erotica（エロティカ博物館）の出口近くのコーナーで、20台前後のモニターテレビで一齐に放映している Pornography 映画の、それもペニスとヴァギナの結合シーンばかりを集めたもの（もちろん無修正）を、最初は興味深く、しかしやがてはさすがに辟易しながら見ていた（横で中学生くらいの男の子が見ていたが、この博物館には見たところ年齢による入場制限はなかった）。だから、男性客に気を持たせながら着衣を取っていく美しい踊り子たちが放つエロチシズムは、私にとって昼間の経験に比べればむしろ新鮮だった。



〔写真3〕

室内のいくつかのボックス席では、何人かの女性が男性に混じって談笑していた。私は最初、「ああこういうところには女性客も来るんだ」と勘違いしていたが、その後の動きを見ていて、女性は全てダンサーであったことがわかった。

私が入った後初めてのショウタイムで踊った女性が、しばらく他の客のボックスにいた後、私のそばに座った。社交辞令でビールを注文しようかと尋ねたが、彼女は関心を示さない。そしてしきりに話しかけてくるのだが、英語がよく聞き取れない。後から考えると彼女は kom-pagnon (Dansk) もしくは konpanjon (Svenska), company (English), などいろいろな言葉を使って意志疎通を図っていたようだ。しかしとうとう埒があかないと見たのか、より直截な以下の問いを投げかけてきた。

“Will you have a private time with me?”

香水のいい匂いがする美しい金髪女性からこのように尋ねられて私が驚いたのは言うまでもない（情報通には当たり前のことかもしれないが、私にとっては初体験だった）。

“How much?” と聞き返すと、2000DKK (=36,000 円) と言う。新宿歌舞伎町あたりの相場もこんなものだろうかと考えつつ、「高い」とコメントしたもののだから、彼女は「交渉」と勘違いしたらしく “no more” とか、クレジットカードも使えるとかいろいろ言う。私はその気はないという意味で、

“I’m an academic researcher. I can’t spend such much money in one night.”

と言うと、彼女はなにを勘違いしたのか、

“No, one hour.”

と答えた。

脈がないと見て私から離れた後しばらくカウンターに座っていた彼女は、その後別の男性に

近づき、ややあって首尾よく二人腕を組んでクラブを出ていった。彼女はこのクラブで踊るダンサーであると同時に、これから稼ぎせんとする売春婦でもあったのである。「上品なエロティシズム」などとひとり悦に入っていた私がすっかり白けてしまったのは言うまでもない。全てのダンサーが同じ事をするのかどうかは定かではないが、少なくとも私に近づいた女性の場合、strip show は上品なお色気などではさらさらなく、買春をさそうための presentation にすぎなかったのである。全裸になったらすみやかにショウを終わるのは、奥ゆかしさでも何でもなく、「この先を希望する方は2000DKK よ。」という意味だったのだ。

私は翌日よほど City Information にクレームを付けようかとも思ったが、やめた。私がショウを見に行ったりしなかったら、この一件は発生しなかったのである。抗議しても恥をかくだけかもしれない。しかしおそろくなんども Metropol Hotel に観光客を紹介しているはずの City Information が、このホテルで深夜生じている事態について全く知らないとは考えにくい。

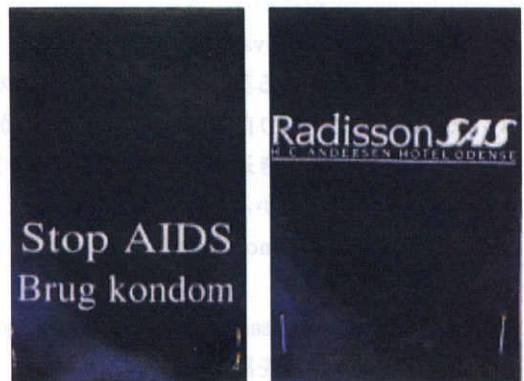
また、2日後の12日(金)に744,75DKK(=13,405.5円)を払って泊まった、Tivoli 公園近くの格式の高い Ascot Hotel でも、ホテル内での同様の事態こそ体験しなかったが、ホテルの数軒向こうには、やはり strip show の呼び込み看板が立っていた。11日(木)に Denmark の Fyn 島にあるアンデルセンの故郷の街 Odense で泊まった Radisson SAS H. C. Andersen Hotel Odense では、ホテル内にも周辺にもそうしたいかがわしい場所は存在しなかったが、925DKK(=16,650円)かかるツインの部屋のバスルームには、

“Stop AIDS / Brug kondom” (エイズを防止しよう。コンドームを使おう。)

という標語がホテル名とともに印刷された避妊具(写真4)が1個、石鹸や剃刀と並んで置かれていた。まさかこの高級ホテルが買春を斡旋するとは思いたくないが、「いざというときにはこれを使いましょう。」というのがサービスの一環に位置づいているのは驚きであった。

日本の性風俗産業などの状況を見れば、日本人がえらそうにデンマーク人を悪く言うことはできないが、Denmark ではまじめな旅行ルートのすぐ脇に性の誘惑地帯が存在するということを実感した。私のような節約旅行ではない羽振りのいい日本人観光客が彼女たちを「買う」ことは十分に予想できる。金持ちの日本人はおそらく「カモ」であろうから、本当に言い値通り(“No more”)であるかどうかはわかったものではない。身ぐるみはがれて Kopenhagen の運河に浮かぶということも、あながち極端な想像ではないだろう。

ちなみに、この話を Sverige に戻って Lund に滞在中の知人に話したとき、彼に指摘されて初めて気づいたのだが、なんと City Information Center に置いてある無料の『コペンハーゲンガイド』(日本語版)にさえ、4ページにわたって“COPENHAGEN AFTER DARK”という広告ページがあり、“ESCORT”, “NIGHT-CLUB”などの言葉や胸を露にした女性の写真が載っているのである。性風俗産業は「公式」にも観光都市 Kopenhagen の「売り」の一つということだろうか。



〔写真4〕

Radisson SAS H. C. Andersen Hotel のバスルームにあったもの

3. 北欧体験・ケースその2：スウェーデンの市街地で pornography を買う

Danmark の København では、私の狭い行動範囲での観察に過ぎないが、スナック菓子やドリンク類を売っている大通りそばのコンビニ的な店で、他の商品と同様に普通に pornography を買うことができた。PLAYBOY や PENTHOUSE のようなアメリカ系のものが 80DKK（＝1,440 円）前後、Danmark 国産品はその半額程度だった。

Sverige に戻り、9 月 16 日（火）に Malmö 市内を散策したとき、後々のために（つまり性情報に関する資料として）Sverige でも pornography を購入することにした。とは言っても、初めての街のこと、pornography shop のようなものがどこにあるかわからないし、わざわざ人に聞くのも気が引ける。そこで Danmark のときと同じくコンビニ的な店に飛び込んでみたところ、やはりあった。ただし、ここで一般化することは危険だが、私が入った店では 4 段ほどあった雑誌の棚の最上段にしか pornography はなかった。つまり、子どもの手は届かないような高いところにしか置いてなかったのである。2 段目あたりにある雑誌は、表紙に故ダイアナ元妃の写真が大きく掲載されたゴシップ週刊誌的なものだったが、1 冊ずつめくって確かめたところ、ヌードグラビアは 1 ページもなかった。

私はちょうど Sverige の通貨・krona の現金をあまり持ち合わせていなかったのも、VISA Card を使ったのだが、レジでのカードの処理に時間がかかり、後ろにたくさんの人が並んだ。一緒にいた知人が待っている間に外へ出てしまったので後で理由を尋ねると、「まわりの人がみんなすごい顔つきで佐藤さんを睨んでいましたよ。」と言う。私は購入中は幸いにしてそのことに気づかなかった。緊張していたのかもしれない。やはり Sverige の Malmö では、pornography は昼日中に市街地のコンビニで買うべきものではなかったのだ。

4. Sverige・Danmark の性教育情報収集にむけて

Stockholm 在住のジャーナリスト、ビヤネール多美子氏に最近（1997 年 10 月 20 日）照会したところによると、氏の『スウェーデンの性教育と授業革命』（昌平社 1976 年）以降今日まで、Sverige の性教育について紹介・分析した日本語文献は、氏自身による Sverige の近況報告（ビヤネール多美子「ストックホルムだより・新指導要領によって性教育は後退か!？」（『Human Sexuality』No. 16 東山書房 1994.8）などの少数の例外を除いてほとんどないようである。

今回の旅行により、一定量の英語およびスウェーデン語の文献を収集できた。その分析も始めているのだが、紹介する時間的余裕がない。次稿を期したい。（未完）